

頑張る

# 農業法人

顧客のニーズに合った苗作りに励む、久御山町の(有)山田農産の代表取締役・山田久司さん(68)。

同社の他に販売会社も設立し、「日本の食は育苗から」と、590年もの歴史がある野菜苗「淀苗」の生産・販売に地域の生産者と一体となって取り組み、けん引的な役割を果たしている。

同町の北川顔(きたかわづら)と藤和田両地区は、淀川と木津川にはさまれ、昔から水害が多かったが、土壌は砂質で、有機質を含み、野菜の育苗に恵まれている。そのため、梅雨までに収穫できる農産物としての野菜育苗が1420年(応永27年)に始まったとされる。山田さんの家では、藤和田で「淀苗」を代々

生産していたが、父と祖父を亡くしたことから、15歳で農業を継ぐことになった。

地元の育苗農家で組織する「北藤育苗組合」の一員でもあったが、信用力アップや販路拡大のため、1987年に家族や親類で(株)山田育苗園を立ち上げた。「苗は伸び過ぎないようにすること

で、根と株が大きくなる」とこだわり、根付きや実の良さが評価され、各産地から注文が寄せられ

久御山町

## (有)山田農産



スタッフが励む育苗作業に見入る山田さん

### 「淀苗」を生産拡大

## 地域生産者と一体 けん引的役割

どを目的に、全国各地の有志と日本野菜育苗研修会(現・日本野菜育苗協会)を設立。初代会長を務めるなど、全国の育苗生産のリーダー的存在でもある。

また、地区内の育苗農家で過剰となった苗を買い取るなど、地域共存の姿勢で臨んでおり、周囲の信頼も厚い。現在、鉄骨温室など合わせて大小10棟と露地2畝で、タマネギ、ナス、トマトなど約400品種の野菜苗を生産する。ステビア堆肥を使った品質向上にも取り組み、ブランド「淀苗」を守っている。

「顧客が求めるものに丁寧に対応することが商売。農業経営としてはトップクラスと自負できるし、息子2人も後継者になってくれた。地域ぐるみで淀苗を継承している」と笑顔で話す。

▽法人の所在地 久世郡久御山町藤和田封戸殿9。(電)075(631)4522。

明良さん(43)が務める。トタイマーは40人。正規従業員は5人、パート

山田さんは、日本の食料を守る苗作りの発展な